

■日親 僧。迫害を受けて“なべかむり日親”といわれたが、大赦後、本法寺復興し、京都に日蓮宗の教勢を一気に拡大した。

にっしん

・・・・・・1407＝ 上総国埴谷で生まれる。

足利義満没・1408＝ 1歳：

・・・・・・1410＝ 3歳：この年、義父埴谷法義が法華経寺に日蓮真蹟「十章鋤」等を寄進する。

埴谷左近将監の猶子となり、

上杉禅秀の乱1416＝ 9歳：この頃、兄とともに、埴谷妙宣寺の日英に弟子入りし、

・・・・・・1417＝10歳：師日英から譲状を受ける。

・・・・・・1420＝13歳：師日英から再び譲状を受ける。

義持出家・・1423＝16歳：師日英が死去。

将軍不在化・1425＝18歳：以後、中山法華経寺(千葉県市川市)の5世日蓮・同6世日薩に師事して修学、

・・・・・・1427＝20歳：*上洛し、一条房橋のたもとで説法して伝道活動の第一歩を踏み出す。日有の謗法を度々諫め始める。

義教籤引將軍1428＝21歳：

尚氏王統確立1430＝23歳：中山法華経寺で門流の秘書を見る。

明貿易回復・1432＝25歳：仙波仏藏坊頭海より「相伝法門目録」を伝授される。

・・・・・・1433＝26歳：本山から“九州の導師”を命じられ、肥前国小城の光勝寺に赴き、信仰の指導にあたるが、その主張がきわめて厳格で信仰を純粹に守ることを要求するものだったため、領主の千葉氏との間に深刻な対立を生む。

世阿弥配流・1434＝27歳：

・・・・・・1437＝30歳：*法華経寺教団を破門され、師日英から譲られた本尊聖教、坊舎なども没収され、再び上洛。鎌倉公方足利持氏の法華経一万部読誦会への出仕を断る。この頃、京都に伝道の拠点本法寺を開創。

永享の乱・・1438＝31歳：九州真俗中に宛て「折伏正義抄」をおくり、貫首日有の謗法を厳しく批判。

永享の乱終・・1439＝32歳：將軍足利義教に対して日蓮の教えを信奉することを直訴しようとして、厳しい取り調べを受け、

結城合戦・・1440＝33歳：再び直訴しようと「立正治国論」を著し、これを浄書しているうちに捕えられて、激しい法難を被る。後世頭に焼け鍋をかぶらされたという伝説が生まれ、“なべかむり日親”と呼ばれる。

嘉吉の乱・・1441＝34歳：將軍義教が赤松満祐に謀殺されたため、恩赦によって出獄すると、京都をはじめ各地に伝道活動を展開。

対馬嘉吉約条1443＝36歳：

本阿弥家をはじめとする京都町衆の援助を得て、急速に勢力を伸長させた。日親の主張は、日蓮に従った法華経の信仰を強く迫り、他宗を激しく非難するものであったため、各地で激しい迫害を被る。

・・・・・・1452＝45歳：

・・・・・・1460＝53歳：このような伝道活動を続ける日親を罰すべく、幕府は肥前の千葉氏に命じ、

蓮如御文始・1461＝54歳：

寛正大飢饉終1462＝55歳：しぶっていた千葉氏に連れられて京都に到着、禁獄される。

・・・・・・1463＝56歳：*將軍生母日野重子の逝去による大赦で、禁獄を赦される。本法寺も復興。

教えに従う者もしだいに多くなり、本法寺を本寺として確立、末寺も多数建立して教線を拡大して行く。

応仁の乱始・1467＝60歳：京都の日蓮宗諸寺が一致和睦の盟約を結ぶも、参加せず、

・・・・・・1470＝63歳：自らが日蓮の正統の法を嗣ぐことを主張した「伝燈鈔」を執筆。

自分を破門した法華経寺7世日有の信仰態度への批判を養父に書き送った「埴谷抄」を著す。

・・・・・・1472＝65歳：下総国印東庄において、「諸宗諫曉要文」を記す。

加賀一揆始・1474＝67歳：日敬に「相伝法門目録」を伝授し、以後しばしば法門を伝授。

・・・・・・1476＝69歳：日蓮像を開眼する

応仁の乱終・1477＝70歳：

京都本願寺・1479＝72歳：

銀閣寺着工・1484＝77歳：十八ヵ条の本法寺法式を定める。日祇に命じて目親像を造る。

・・・・・・1487＝80歳：*本法寺の拡張移転を発願し、十七ヵ条の本法寺法式を定め、教団秩序の確立をはかり、さらに本法寺拡張のための勸進を志し「本法寺縁起」を著して活動をはじめたが、

加賀一向支配1488＝81歳：京都水雲寺で、没した。